

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 2021年7月1日

(2)調査対象期間 2021年4月～6月期の実績および2021年7月～9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	20社	66.7%
水産業部会	30社	15社	50.0%
機械工業部会	30社	17社	56.7%
建設業部会	30社	21社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	21社	70.0%
合計	150社	94件	62.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

ー業況は好転した業種により大幅に回復するも、次期は再び悪化の見込みー

1. 全体の動き(業況)

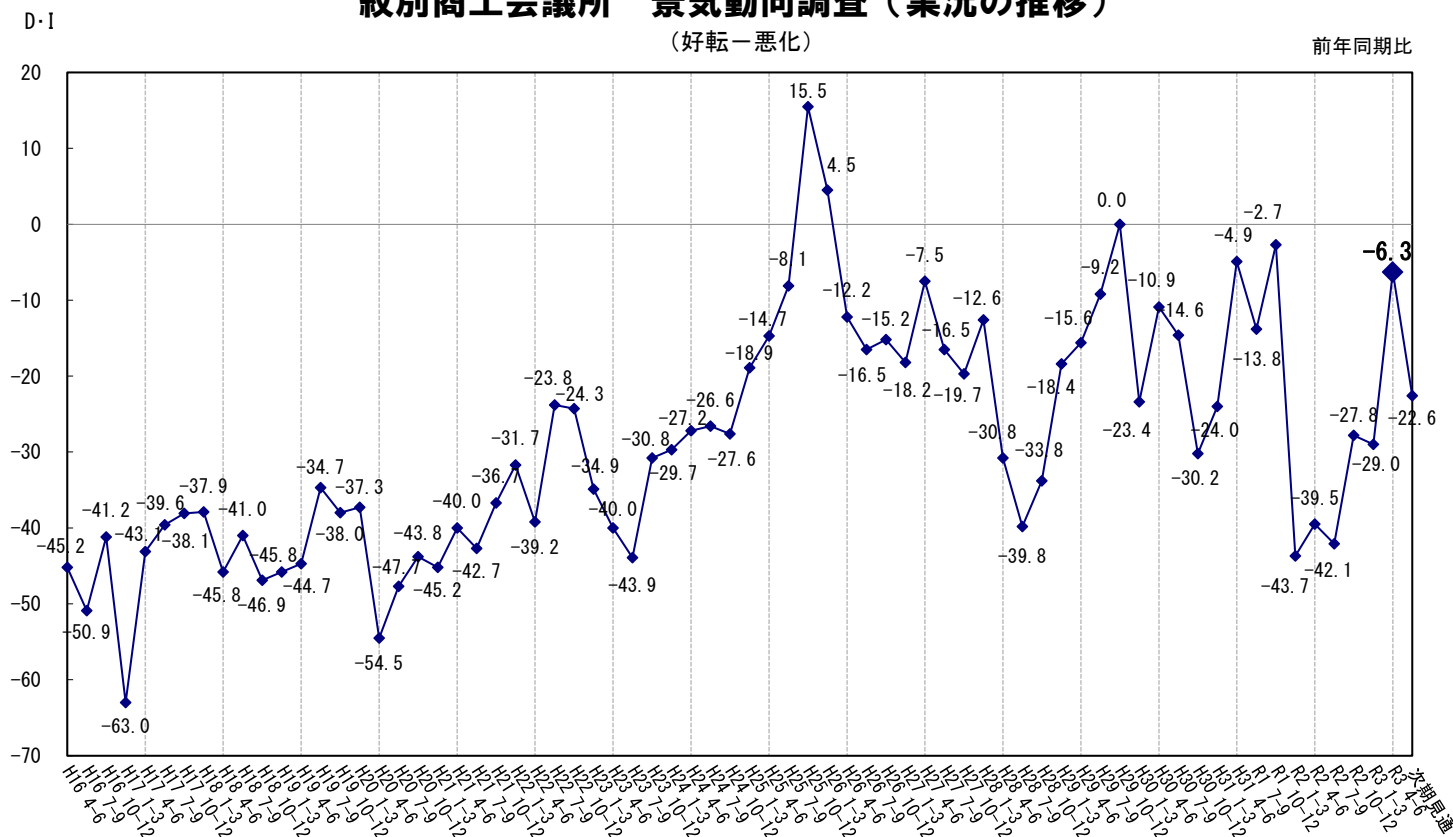
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2021(令和3)年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲6.4**と前年同期の▲39.5より**33.1ポイントの回復**となりました。

部会別で前年同期(2020第1四半期)と比較すると、商業・食品業[前年DI値▲47.0→**今期▲45.0**]、水産業[前年DI値▲5.9→**今期26.7**]、機械工業[前年DI値▲20.0→**今期17.7**]、建設業[前年DI値▲47.6→**今期▲4.8**]、観光・サービス業・諸業[前年DI値▲66.6→**今期▲14.3**]となりました。

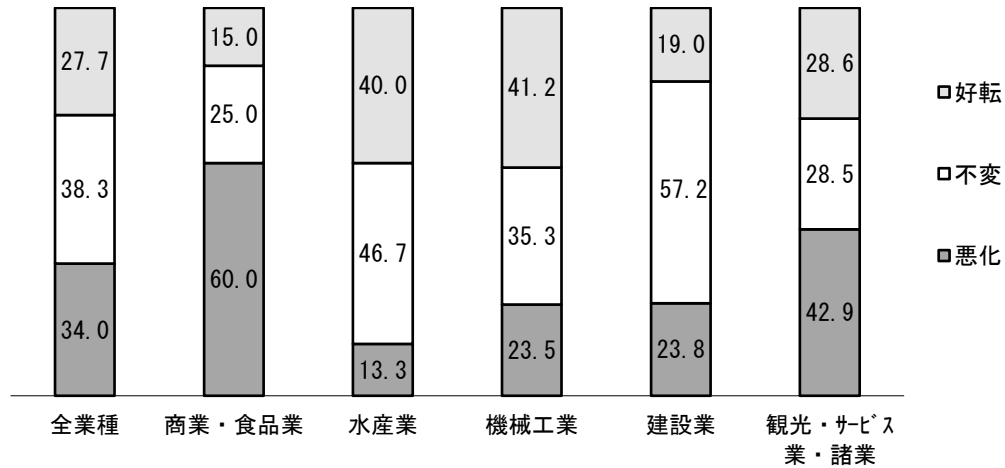
今期は5月から「蔓延防止等措置法」に続き、2度目となる「緊急事態宣言」が北海道に発令されましたが、全業種を通して、全国一斉に緊急事態宣言が発令された昨年と比較して業況は回復傾向にあります。昨年は未知のウイルスへの感染対策や、中国からの部品や資材等の輸入が滞ったことによる経済の停滞もありましたが、今年は、コロナウイルスに関する対応策が少しずつ解明されていることにより、注意すべきポイントが押さえられてきていることから、急激な悪化にはなりません。しかしながら、小売店から「ワクチン接種したから自分は大丈夫」とマスクを着用せずに来店される方への不安の声も寄せられており、引き続き一人一人が相手の事も考えた行動をしなければならいと感じます。

来期(2021年7月～9月)については、今期と比べて**業況判断DIが▲22.6と16.3ポイント悪化する見込み**となっていますが、今年も9月1日から発売される「紋別市プレミアム付商品券」(プレミアム率30%)による経済効果も期待されます。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「需要の停滞」の他、「原材料単価の上昇」を訴える声が多くなっています。

■部会別の動向

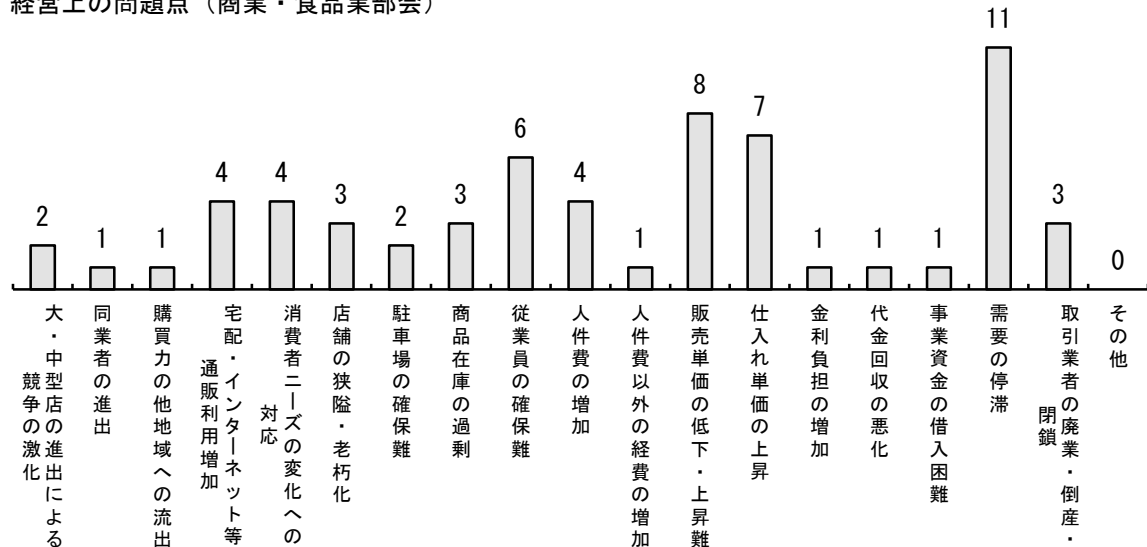
【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲45.0（前年 DI 値▲47.0、来期見通し▲47.4）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、2ポイントわずかに回復となりました。昨年は感染経路も含め、未知の部分が多かったことから、大型連休をはじめ、春の観光での入込客が少なく、土産店を中心に大きな打撃を受けたほか、入学式への保護者の参列も規制されたことから、服飾の需要も大きく落ち込みました。今期は5月に2度目となる緊急事態宣言が発令され、少しずつ回復していた人流に歯止めがかかってしまいました。次期は更に悪化するとの回答があり、休業要請の解除後の経済活動が活発化する事に期待されています。経営上の問題点は、「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・コロナの間接的な残金回収の悪化、仕入れ単価の上昇。タンクローリーの老朽化。（燃料小売）
- ・深夜営業は紋別市には必要ないと思う。ワクチンを打ったからマスクなしで大丈夫といったお客さんが多くなり不安。（食料品等小売）
- ・需要の創出が日本の課題。全産業がだめになる。（食料品等小売）
- ・緊急事態宣言によりお店が開店できず、アルコール販売を止められたら何もかも麻痺する。（食料品等小売）
- ・資金・借入・援助が店舗、事業者で極端すぎる。違いがあるのでは…（食料品製造・小売）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

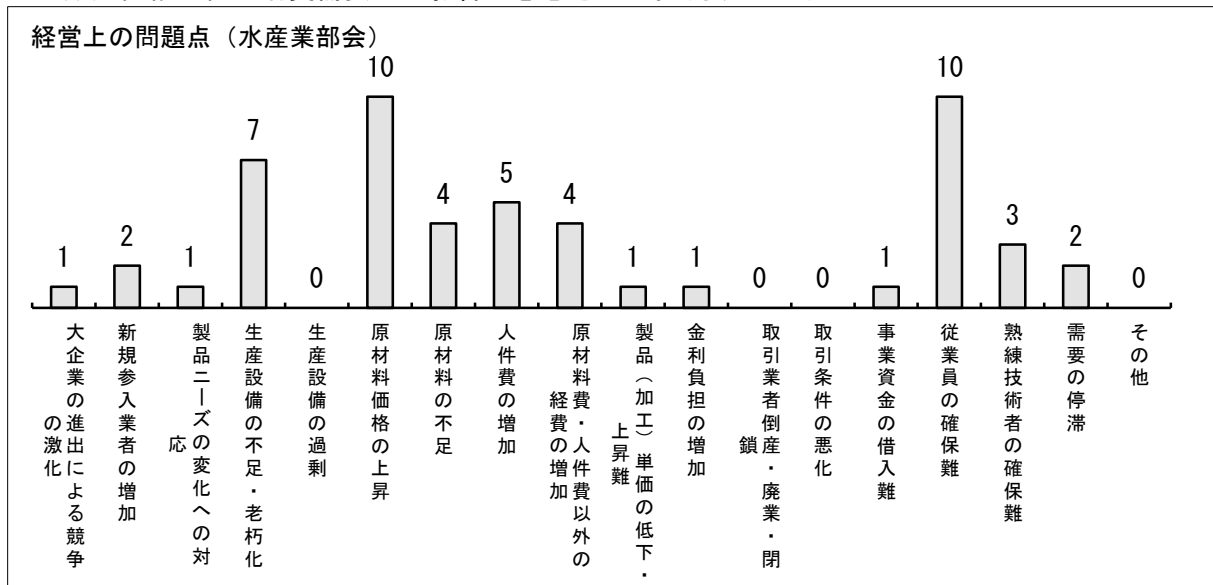


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）26.7（前年DI値▲5.9、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、20.8ポイント回復し、好転となりました。令和2年度のふるさと納税の納税額が全国2位となり、依然として人気が高く、特に冷凍ホタテやカニといった水産物が上位を占めていることが、好転した要因と思われます。経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。人手不足の解消策として、自動の貝剥き機を導入し、作業の効率化を図るなど、少ない人員で対応可能な設備投資も進んでいます。来期の見通しは、0.0ポイントと今期と変わらず好調に推移する予測となっています。

《業界の問題点等》

- ・外国人実習生の入国が出来ない為、人手不足が生じている。（水産加工）
- ・現在は原料調達、製品販売ともに比較的安定しているが、国内外のコロナ感染再拡大による販売価格も含む消費需要への影響が懸念される。（水産加工）

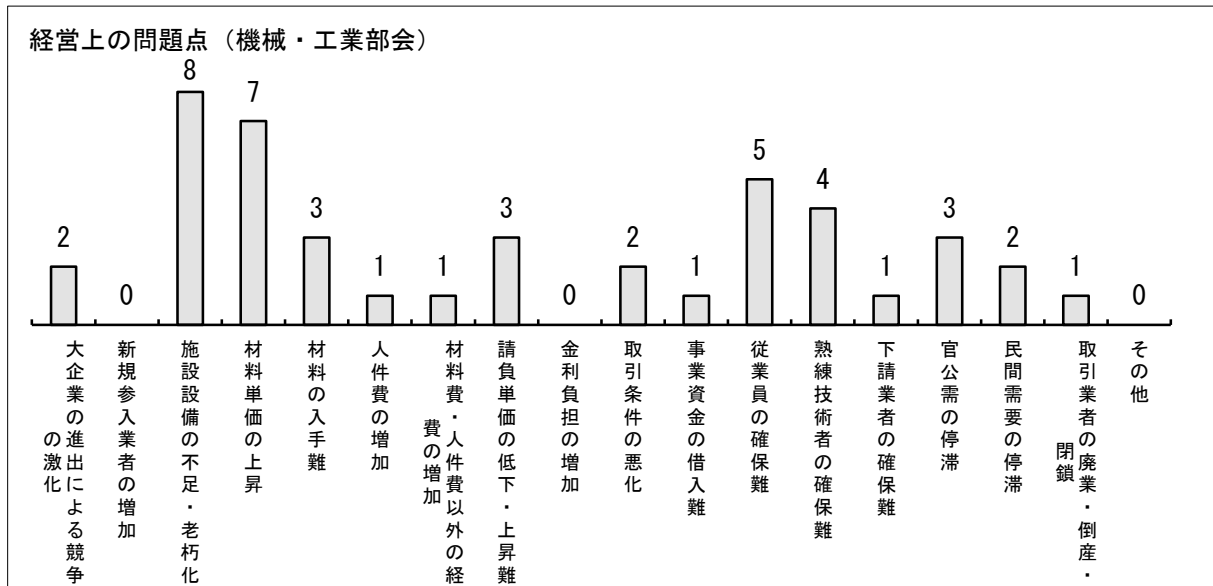


【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）17.7（前年DI値▲20.0、来期見通し▲35.3）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から37.7ポイントとの回復となりました。前年同期は新型コロナウイルスの影響により、会議やイベントの中止による印刷や梱包資材関連での受注は減少していましたが、今年は飲食店等でテイクアウトの容器や、ふるさと納税の発送に係る梱包資材等の需要増加も好転の要因となったもの考えられます。また、自動車関連でもコロナ感染予防が浸透し、自動車整備等も順調に進んでいることも好転の後押しとなっています。経営上の問題点は「施設設備の老朽化」、「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・前年度（4～6月）は民間・官公の需要が若干増加でしたが、今期は20%減少となり、今後の見通しは全く不透明です。プレミアム商品券に期待も？（家具等製造）
- ・コロナによる影響。設備投資はしたいが、見通しが立たない。（自動車整備）
- ・4月に自動車のフルモデルチェンジにより新車の売上又相乗効果があり、サービス工場、中古車販売の売上も増加。昨年の4～6月は新型コロナ感染予防で「訪問の自粛と来店客の減少＝売上の減少」など、かなりコロナ感染に緊張感があったように思います。今年の4～6月はコロナ感染予防で市役所からの補助金等でいろいろな感染予防対策をし、また街全体としてもコロナ感染予防対策が進んでいますので、安全安心が浸透しているように思います。今後はデルタ株が流行ってくる様子なので、コロナ感染3回目のワクチン接種の段取りを早急に取組が必要です。（自動車修理販売）

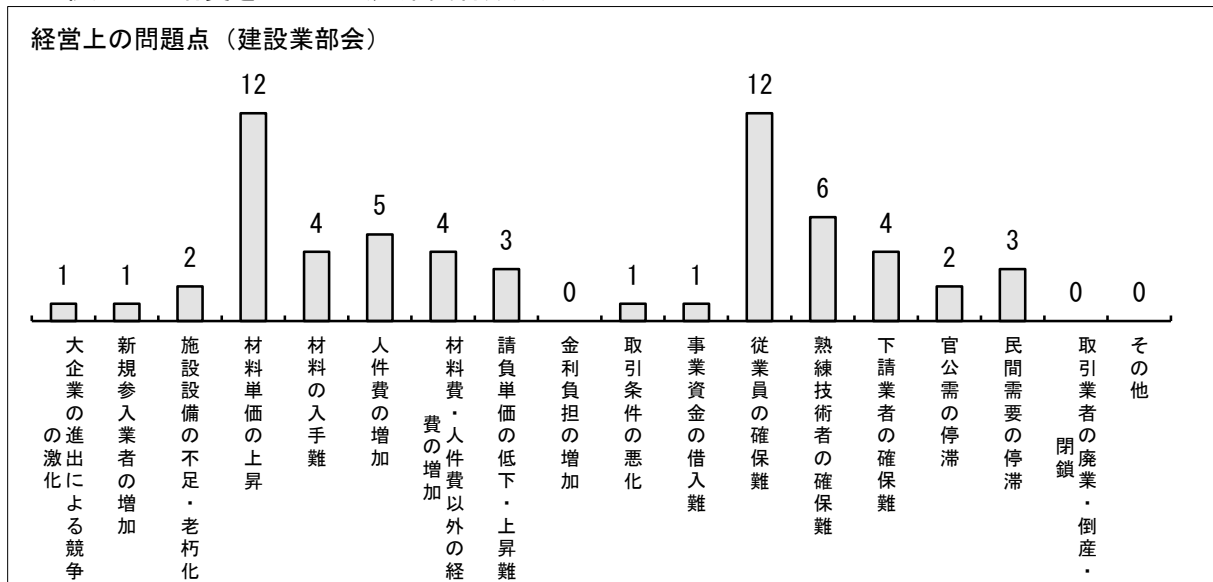


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲4.8（前年DI値▲47.6、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から42.8ポイントの回復となりました。前年は工事の受注はあっても部品がないという事態となっていました。それらが解消されたことに加え、紋別市の「商業環境整備補助金」を活用してコロナによる閑散期に設備の改修等への取組や、取り壊しの決まった店舗から新店舗への移転に伴う改修等が行われ、需要が増加しています。来期は、わずかではあります。更に回復する見通しとなっています。経営上の問題点は「材料単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・紋別地元消費を望む！（建築資材販売）

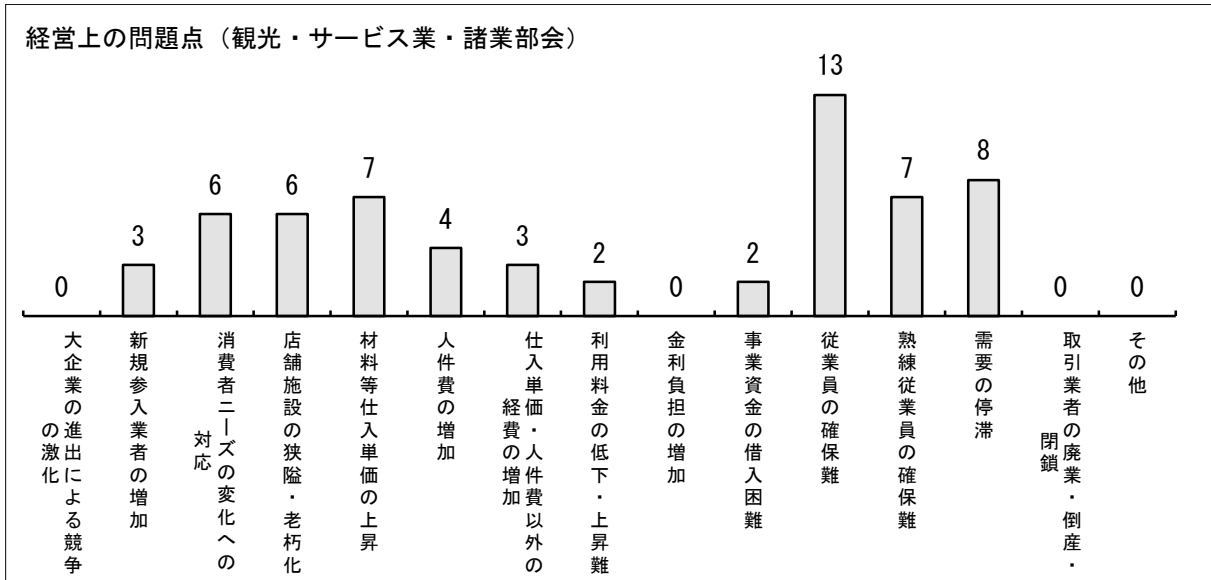


【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲14.3（前年DI値▲66.6、来期見通し▲28.6）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値から52.3ポイントの大幅な回復となりました。昨年は国から発令された緊急事態宣言発令後、知事による大型連休期間の外出自粛要請があったことに加え、理美容室など生活関連サービスでも高齢者を中心に利用を控えたこともあり、大きな影響を受けました。コロナ発生から1年が経過し、注意すべきポイントが明確になってきたことから、利用者も徐々に回復し、依然としてマイナスでの推移ながらも、回復傾向となっています。来期見通しは、14.3ポイント悪化する予測となっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 同業者間の閉店や廃業が気になる。しわ寄せによるオーバーワークや地域としての衰退が始まるか？（飲食業）
- ・ コロナで変動する。先行き不透明。（飲食業）
- ・ 一企業の努力のみでは、どうにもならなくなってきている。（一般旅客運送業）
- ・ コロナ自粛（クリーニング）
- ・ 人材不足（介護福祉）



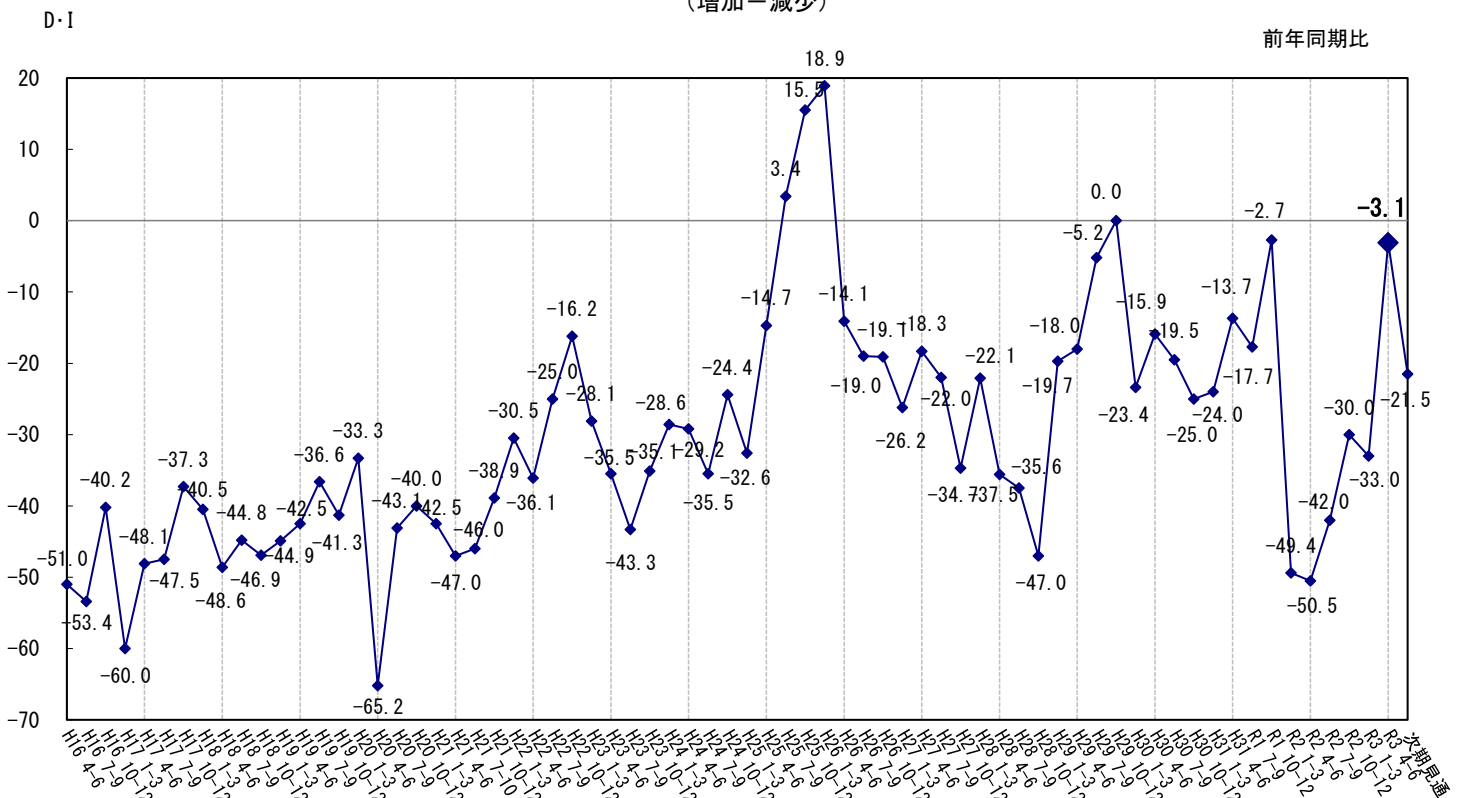
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

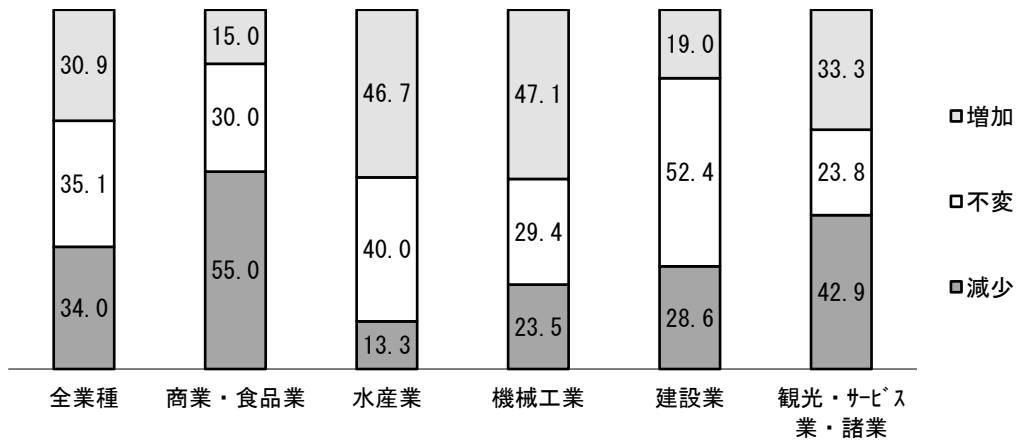
【前年同期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高）

売上高・生産高推移（全業種平均D・I）

（増加－減少）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値▲3.1〔前回調査時（令和3（2021）年1～3月期▲33.3）より30.2ポイント回復〕

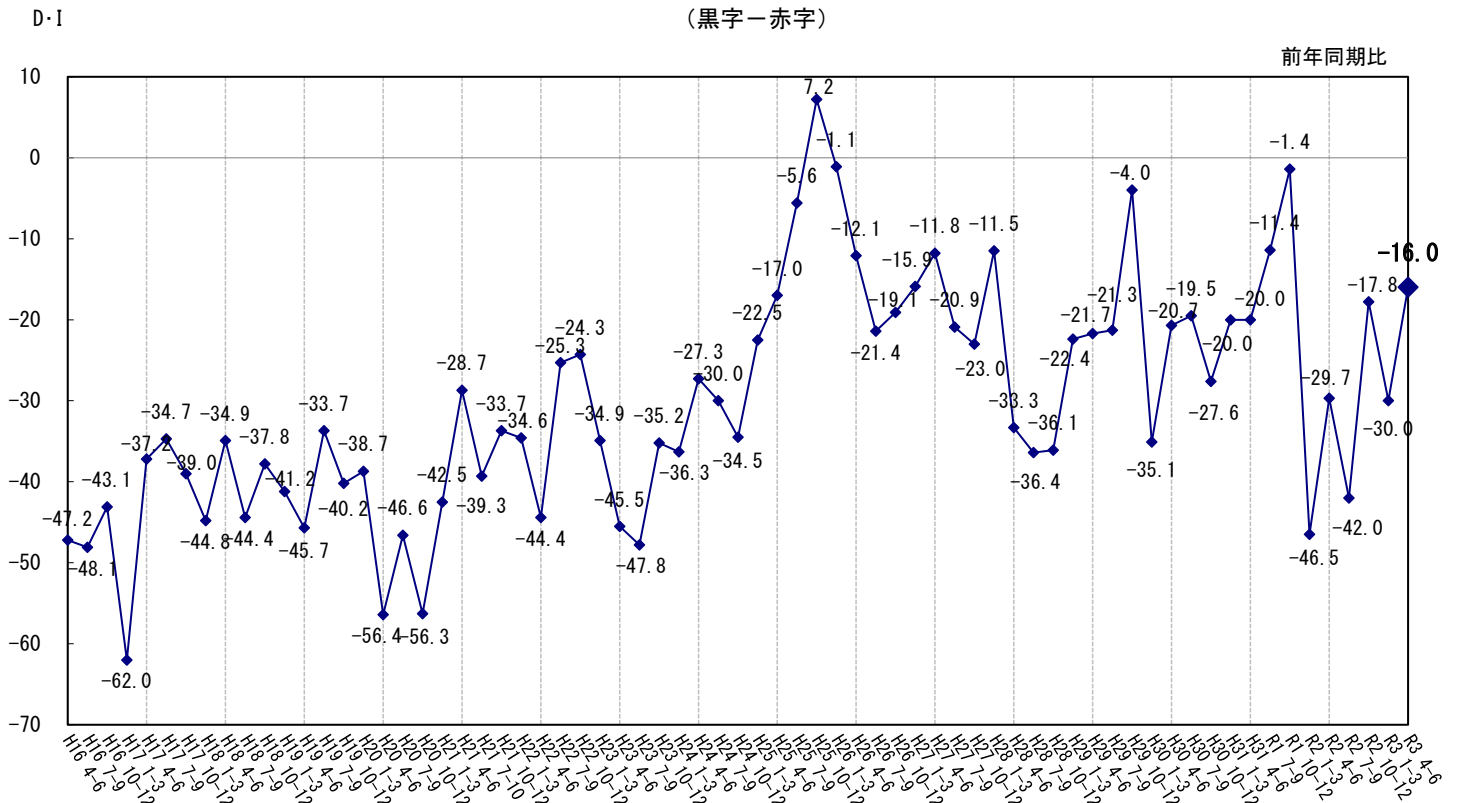
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲58.8→▲40.0〕、水産業〔前年▲35.3→33.4〕
 機械工業〔前年▲26.6→23.6〕、建設業〔前年▲52.4→▲9.6〕
 観光・サービス業〔前年▲71.4→▲9.6〕

(2) 今期の採算

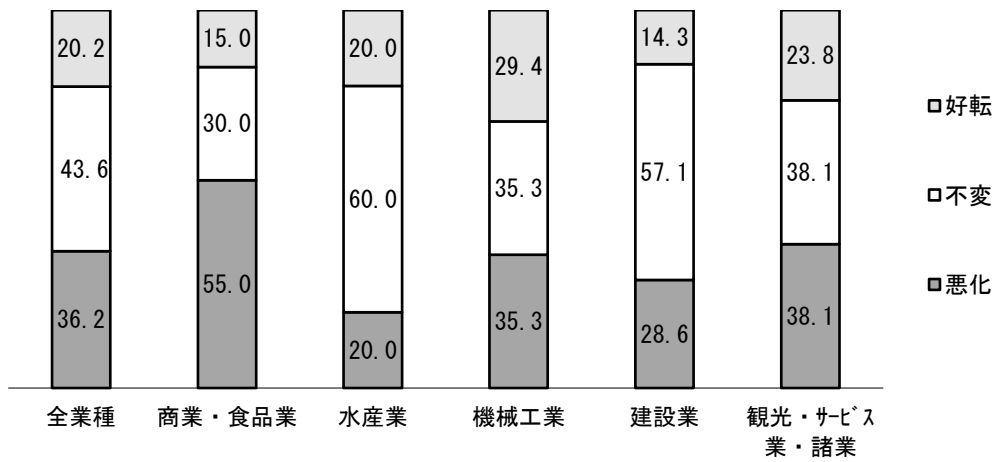
【前年同期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



今期の採算（前年同期比）



全業種平均でDI値▲16.0〔前回調査時（令和3（2021）年1～3月期▲30.0）より14.0ポイント回復〕

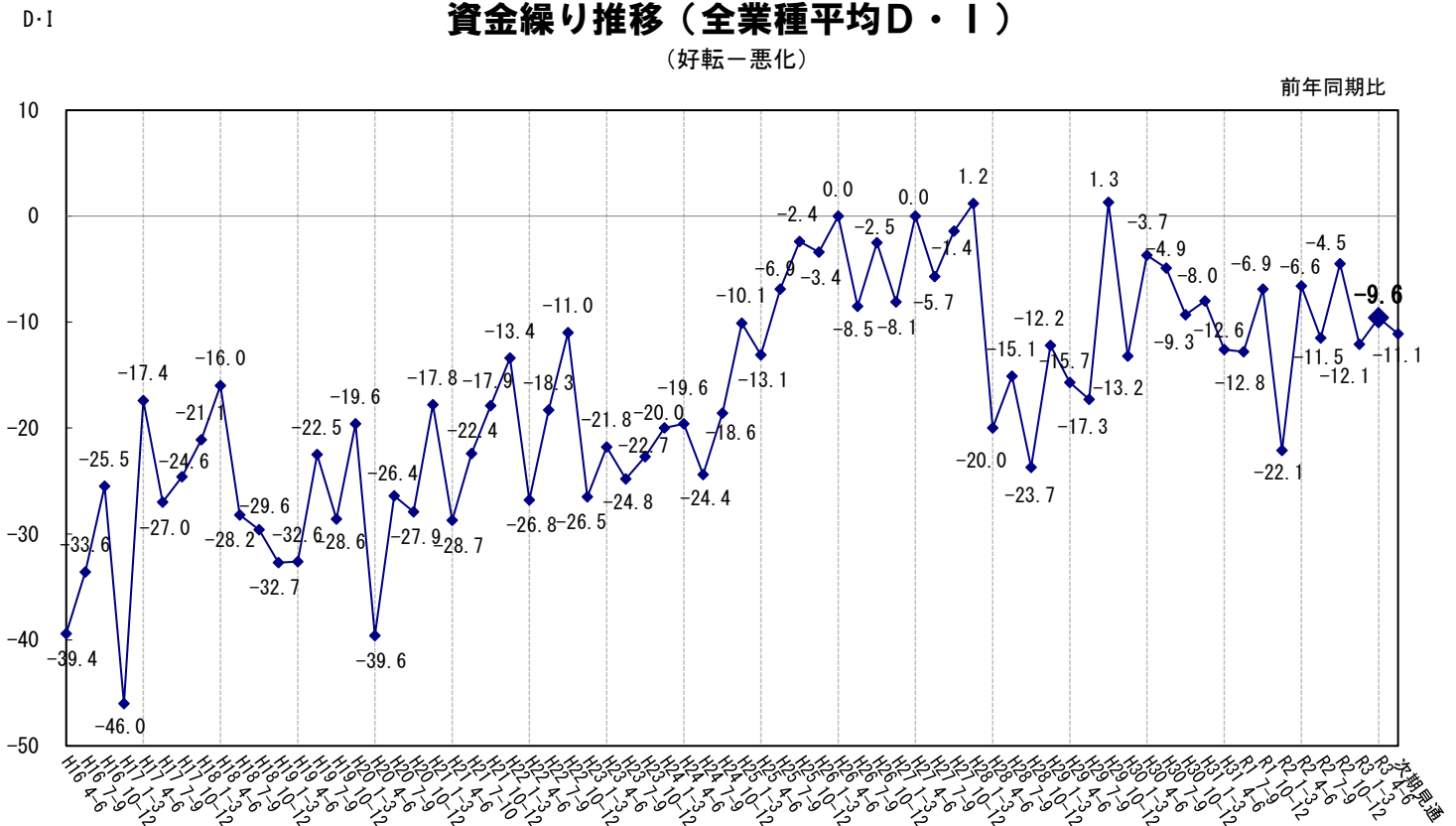
【部会別DI値】 商業・食品業〔前年▲11.8→▲40.0〕、水産業〔前年▲11.8→0.0〕
 機械工業〔前年▲20.0→▲5.9〕、建設業〔前年▲38.1→▲14.3〕
 観光・サービス業〔前年▲27.2→▲14.3〕

(3) 今期の資金繰り

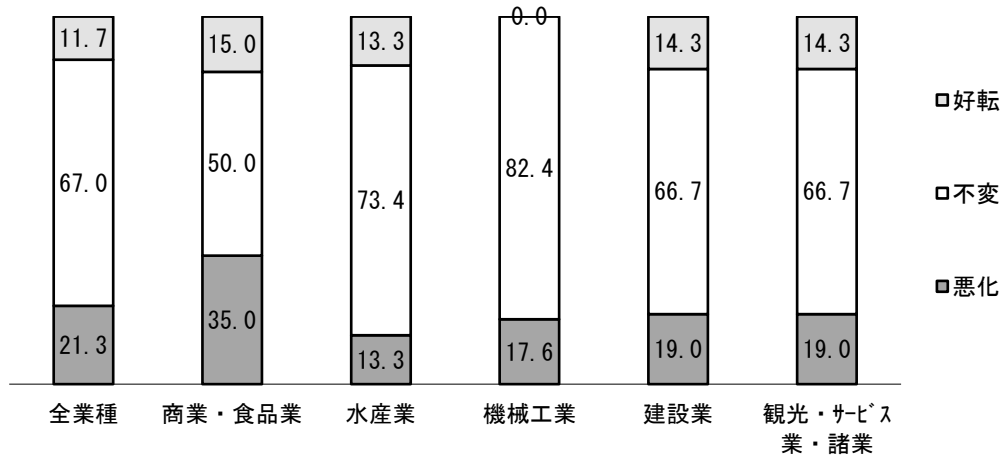
【前年同期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）

資金繰り推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）



今期の資金繰り（前年同期比）



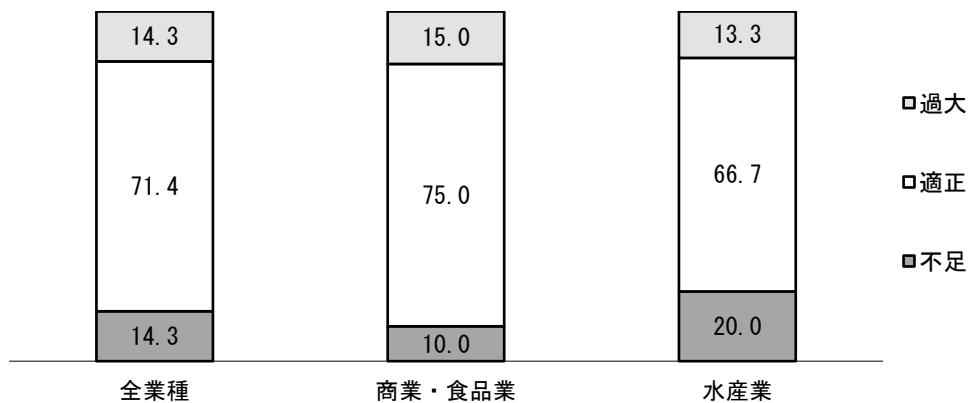
全業種平均でDI値▲9.6〔前回調査時（令和3（2021）年1～3月期▲12.1）より2.5ポイント回復〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年17.6→▲20.0〕、水産業〔前年▲5.9→0.0〕
 機械工業〔前年0.0→▲17.6〕、建設業〔前年▲9.6→▲4.7〕
 観光・サービス業〔前年▲28.5→▲4.7〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（令和2（2020）年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

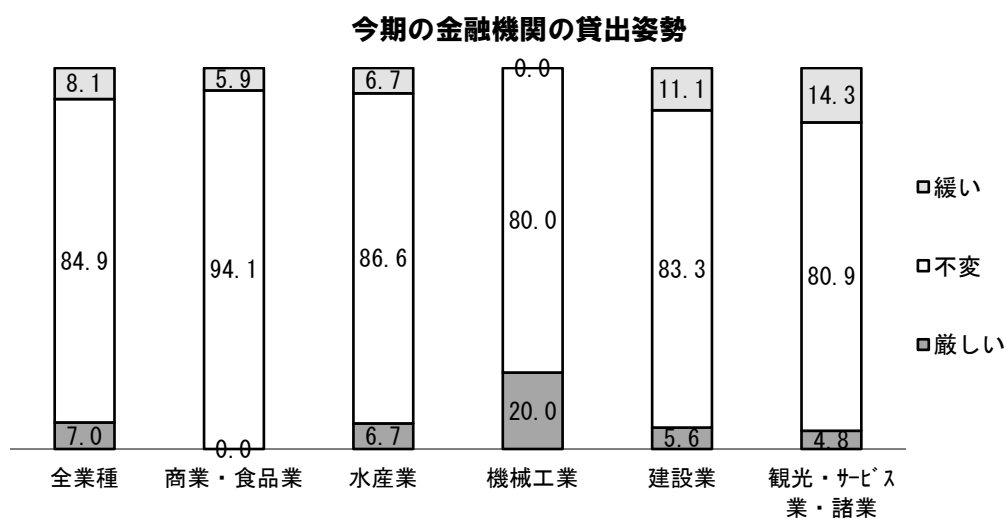


全業種平均でDI値0.0〔前回調査時（令和3（2021）年1～3月期▲10.6）より10.6ポイント回復〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年5.9→5.0〕、水産業〔前年23.6→▲6.7〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

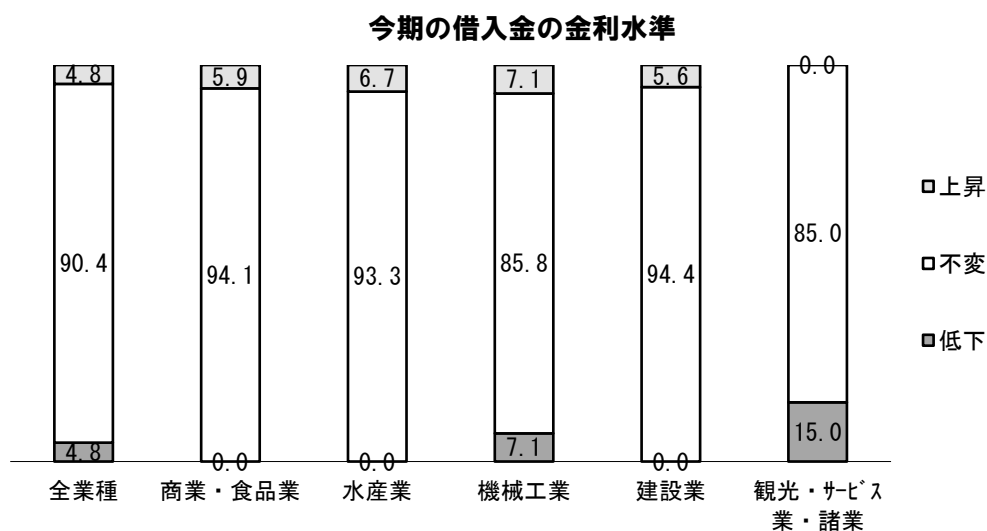
【前年同期比】(令和2(2020)年4月～6月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応)



全業種平均 1.1 ポイント。商業食品業 5.9、水産業 0.0、機械工業▲20.0、建設業 5.5、観光サービス業 9.5。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(令和2(2020)年4月～6月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

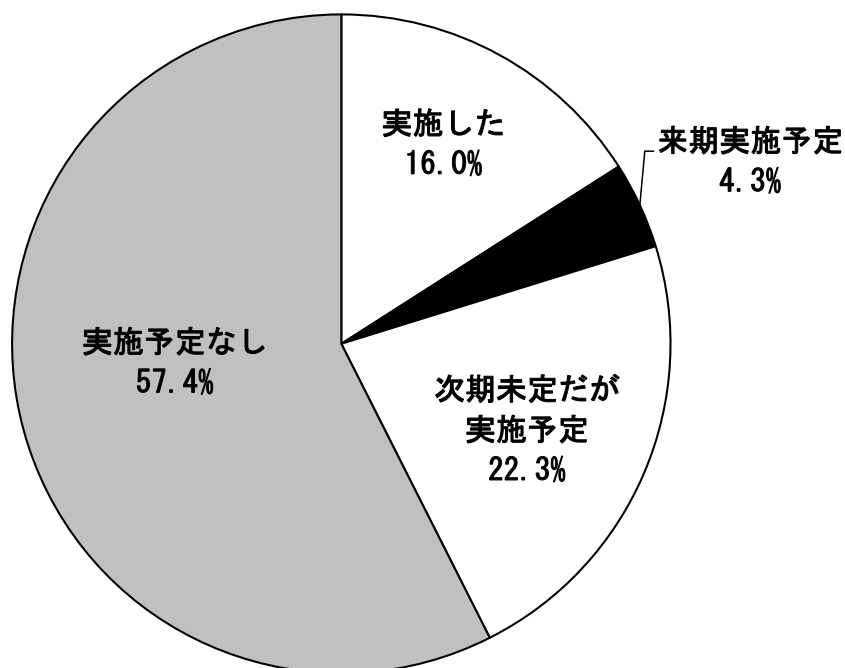


全業種平均で 0.0 ポイント。商業食品業 5.9、水産業 6.7、機械工業 0.0、建設業 5.6、観光サービス業▲15.0。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

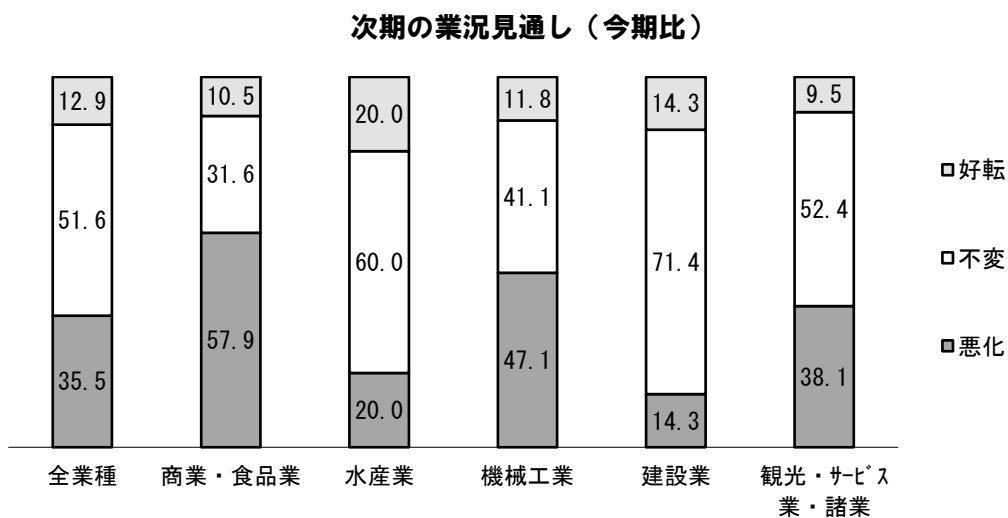
設備投資の実施状況



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

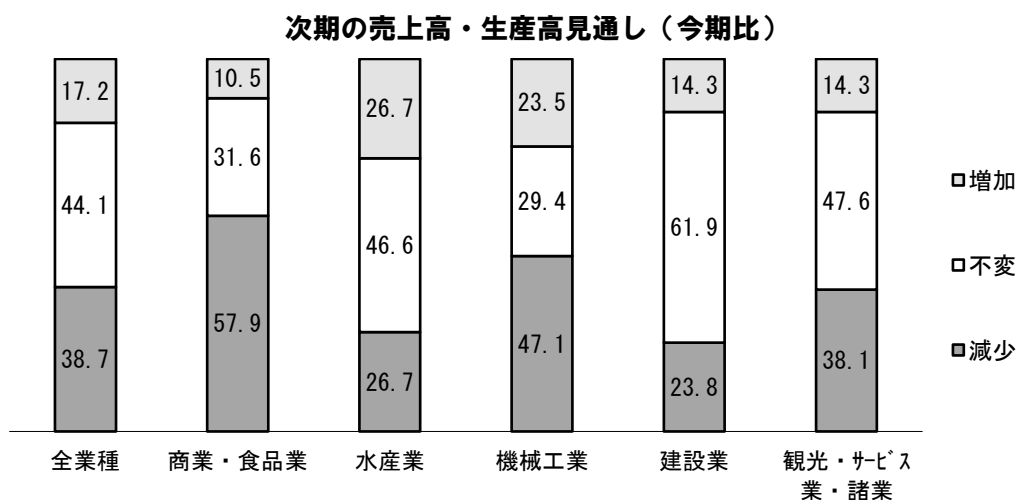
【今期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均DI値▲22.6〔今期の業況（前年同期比▲6.3）より16.3ポイント悪化の見通し〕

(2) 来期の売上高・生産高

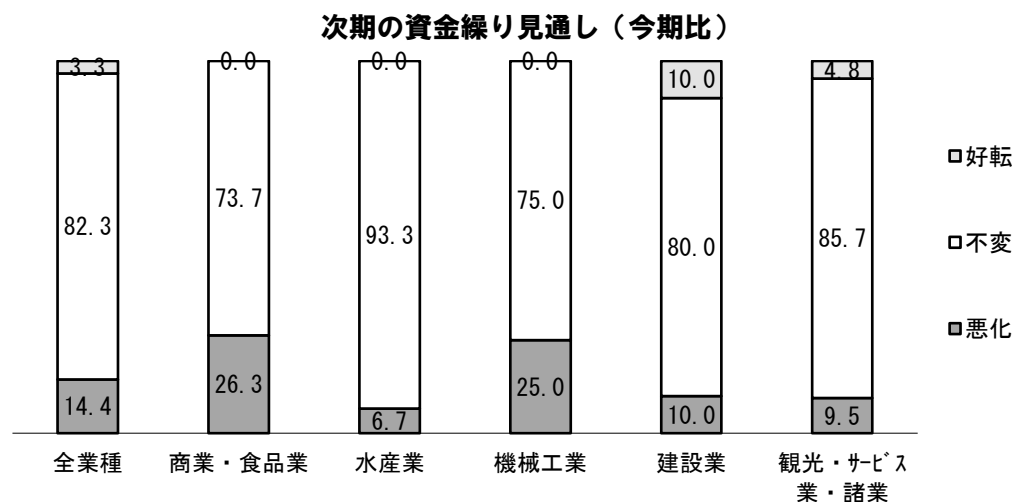
【今期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）



全業種平均DI値▲21.5〔今期の売上高・生産高（前年同期比▲3.1）より18.4ポイント悪化の見通し〕

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（令和3（2021）年4月～6月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均DI値▲11.1〔今期の資金繰り（前年同期比▲9.6）より1.5ポイント悪化の見通し〕

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サービス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲6.3	▲45.0	26.7	17.7	▲4.8	▲14.3
	来期見通し	▲22.6	▲47.4	0.0	▲35.3	0.0	▲28.6
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲3.1	▲40.0	▲33.4	23.6	▲9.6	▲9.6
	来期見通し	▲21.5	▲47.4	0.0	▲23.6	▲9.5	▲23.8
在庫 D・I	今期実績	0.0	5.0	▲6.7	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲16.0	▲40.0	0.0	▲5.9	▲14.3	▲14.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲9.6	▲20.0	0.0	▲17.6	▲4.7	▲4.7
	来期見通し	▲11.1	▲26.3	▲6.7	▲25.0	0.0	▲4.7
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	1.1	5.9	0.0	▲20.0	5.5	9.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	0.0	5.9	6.7	0.0	5.6	▲15.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。